

「数学教育の緊急的課題に対する総合的研究会」の御案内 (第2報) — 数学教育の充実のために新学習指導要領を“活かす工夫”

教室番号が変更されています！ご注意ください。

学習指導要領の改訂の最大の目玉は、従来「数学B」の選択単元の一つであった「統計」が「数学I」という必修科目の中に組み込まれたことでしょうか。「データの分析」という意味が幾分不明確な単元名ではありますが、内容的には、従来選択科目の「数学B」に配当されていたものと比べると、数学的には素朴すぎる概念が必須化されていること、反対に、 Σ 記号の使用が明示的に排除されていることを除けば、ほぼ同一の内容と見て良いものです。したがって、数学教育の面から見ると技法的には単純ですが、圧倒的に多くの大学進学志望者が受験する大学入試センターが実施するいわゆる「センター入試」において、この単元からの問題がそれなりの重みをもって出題されること自身が数学教育にもつ可能的含意は重大であるといえます。これまで多くの「改革」が叫ばれながらもなかなか変革されてこなかった我が国の「数学」教育が、指導要領の改訂というこの「上からの改革」を機に、内的な充実と弾力化に向けての自己変革が促されると見ることもできるかと思えます。

すでに報道されているようにUSでは連邦統一カリキュラムを目指したCCSS (Core Curriculum for States Standards) がスタートし、その中で、従来、必ずしも高いとはいえなかった初等・中等教育の教育目標の大幅なレベルアップが構想され実践に移されつつあり、日本から見ると、その中で統計的な分野(データ解析)が小学校高学年から大幅に採り入れられていることが注意を引きます。

今回、その作成に責任を持っていた統計学の著名な学者であるRoxy Peck教授が「世界統計年2013」のプロジェクトに関連して、来日される。数学教育学会は、Roxy Peck教授を招いて緊急特別シンポジウムを開催致します。

概要

- 日時: 2012年12月15日(土曜日) 9:30-12:00, 13:30-17:00
- 場所: 明治大学駿河台キャンパスリバティータワー 6F 1065 教室
- 主催: 数学教育学会, 共催: 明治大学理工学部数学科 協賛: SAS Institute Japan 株式会社
- プログラム (暫定案ですので変更があり得るとお考えください。)
 1. 9:30-10:00 受付 (会場の定員があります。できれば事前にご登録ください。)
 2. 10:00-10:10 開会 (長岡亮介明治大学理工学部数学科)
 3. 10:10-11:00 統計と大学入試の現状と近未来の可能性 (落合卓四郎 日本体育大学, 数学教育学会会長, 八木 克己 京都府立医科大学名誉教授, ルイ・パストゥール研究所・主任研究員)
 4. 11:10-12:00 数学と統計を巡って — ビジネス・リーダにとっての必要な数理について考える (藤田 宏 東京大学名誉教授, 前数学教育学会会長)

5. 13:30-14:00 新学習指導要領における統計の扱いについて武沢 護 (早稲田大学高等学院 / 大学院教職研究科)
 6. 14:00-14:30 日本の統計教育 (渡辺美智子 慶應大学大学院健康マネジメント研究科)
 7. 14:30-15:20 Pre-College Statistics Education in the United States (Roxy Peck) (Roxy Peck カリフォルニア州立工科大, US 統計学会統計教育委員会前会長)
 8. 15:20 - 15:40 休憩
 9. 15:40 - 16:30 米国におけるソフトウェアを使用した東京教育の現状と今後 Statistical Software as a Teaching Tool (Curt Hinrichs, SAS Institute Inc.)
 10. 16:30 - 17:00 質疑応答, 全体討論
- 参加費: 一般参加者無料、資料代 1,000 円
 - 懇親会: 当面予定しておりません。(希望者が適当な人数であれば開催したいと思います.)
 - 付記事項: 英語講演に関しては同時抄訳サービスを予定しています.